

令和3年度（2021年度）ICTを活用した 学びのDX事業に係る渡島・檜山管内研究協議会

渡島教育局では、令和3年8月23日（月）に、北海道上磯高等学校において、「令和3年度（2021年度）ICTを活用した学びのDX事業に係る渡島・檜山管内研究協議会」を開催し、渡島・檜山管内の校長、教頭、教諭、計24名が出席した。

本協議会では、上磯高校教諭によるICT機器を活用した「公開授業」、公開授業を受けての「研究協議」を行った後、北海道教育庁ICT教育推進局ICT教育推進課主査 佐藤公敏が「ICTの効果的な活用」について演習を行った。

【公開授業】「Googleを活用した数学科授業法」（二階堂 航 教諭・小 田 翼 教諭）

- 1年A組 数学I（2章 2次関数 2節 2次関数の値の変化 「2次関数の最大値・最小値」）
- 3年A組 数学活用（社会生活における数理的な考察 イ数学的な表現の工夫）

〈ICTの効果的な活用例〉

- ・Google Formによる確認テスト
生徒が選択式のテストを解答し、送信することで、教員は採点する必要がなく、解答結果を即時に確認することができる。
- ・GRAPESを活用したグラフの描写
生徒がGRAPESに値を入力することで、正確なグラフを描写することができる。
- ・Google classroomによるペアワークの意見発表
生徒がペアワークの意見をclassroomで送信することで、全生徒の意見を集約できるとともに、生徒への提示の際も、classroomで共有することで板書の時間を省略することができる。また、他学年と接続することで、意見の発表や共有ができる。

【研究協議】「公開授業を受けて」（渡島教育局教育支援課高等学校教育指導班主査 工藤 淳）

- 公開授業を受けて、授業でのICT機器の活用方法についてグループ協議を行った。参加者は、2種類の付箋に「ICT機器の活用について参考になったこと」「ICT機器の活用について疑問に思ったこと」を拡大した授業シートに貼り付け、協議を深めた。その後、授業者との質疑応答をするとともに協議をした内容を発表することで全体共有を図った。

【グループから発表された主な内容】

- ・授業を進める上で、ノートの記入が無いことへの不安を感じたが、支援ソフトの画像保存機能やカメラ機能等を活用し補うことができると感じた。
- ・数学に対する苦手意識がある生徒も、ICT機器を活用することで、ハードルが下がり、教科への導入がスムーズに進むように感じた。
- ・ICT機器を活用することで、授業を行う場所に関わらず、異学年と交流ができることはメリットであると感じた。活用方法によっては、他校や管外など活用の幅を広げることが考えられる。



【演習】「ICTの効果的な活用」（ICT教育推進局ICT教育推進係主査 佐藤 公敏）

- ICTの効果的な活用について、これから求められるICT機器を活用した教育について説明した後、Google Classroomの活用について演習を行った。
〈これから求められるICT機器を活用した教育について〉
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の視点から、生徒が受け身の姿勢ではなく、能動的に学びに向かうための学習方法が必要である。その一助を担うのがICT機器の活用である。
 - ・授業等では、クラウドサービス上の学習支援ソフトを活用した課題配布や提出などが考えられる。



【アンケート結果】

- ① 【公開授業】では、「授業におけるICTの活用」への理解が深まりましたか。
とてもそう思う：28% そう思う：66% あまり思わない：6% まったく思わない：0%
- ② 【研究協議】では、「授業におけるICTの活用」への理解が深まりましたか。
とてもそう思う：17% そう思う：77% あまり思わない：6% まったく思わない：0%
- ③ 【演習】では、「ICTの効果的な活用」への理解が深まりましたか。
とてもそう思う：33% そう思う：61% あまり思わない：6% まったく思わない：0%